

特集

心豊かにならだ元気なまちづくり



わが国の平均寿命は、生活環境の向上や医学の進歩によって高い水準を保ち、世界有数の長寿国となつています。しかし、一方では生活習慣病の増加と重症化によって要介護状態となる人が増加し、

松浦市健康づくり総合計画 「いきいき松浦21(第2次)」 〔松浦市健康増進計画・第二次松浦市食育推進計画〕 を策定しました

医療と介護の社会的負担が問題となつていきます。

国は、平成12年3月に21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)を制定し、壮年期の死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の質の向上を目指してきました。また、平成25年度からの国民健康づくり対策として、健康日本21(第2次)が策定され、生活習慣病の発症予防と重症化予防、子どもの頃からの健康生活の定着、健康を支えるための社会環境整備などが求められています。

松浦市では、平成15年に策定した「いきいき松浦21」と平成20年に策定した「松浦市食育推進計画」を評価検証し、市民一人一人の健康づくりを総合的に推進するための第2次計画を新たに策定しました。

この計画では、心豊かにならだ元気なまちづくりを目指すために、今後10年間の健康づくりに関する取り組みと自然に恵まれた松浦の特徴を生かした食育の取り組みについてまとめています。

今回は、松浦市民の健康に関する現状と市民一人一人に取り組んでいただきたい生活習慣について紹介します。

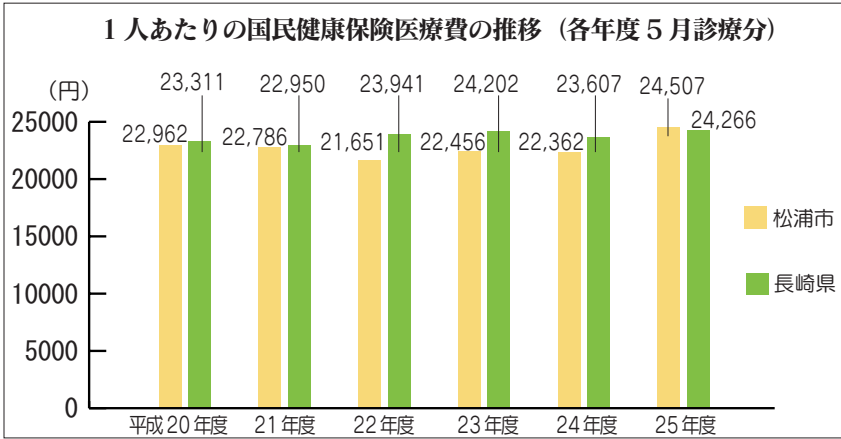
特集 心豊かにかからだ元気なまちづくり

市民の健康に関する現状

1 医療費の増大

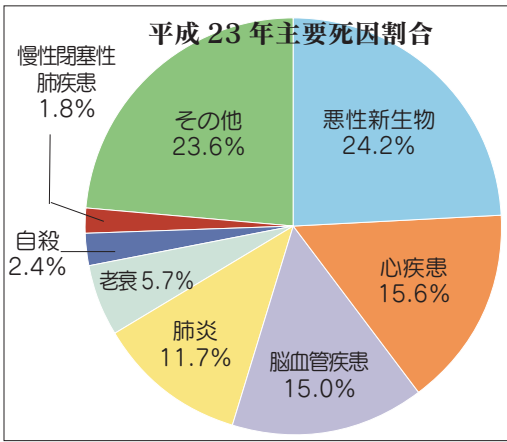
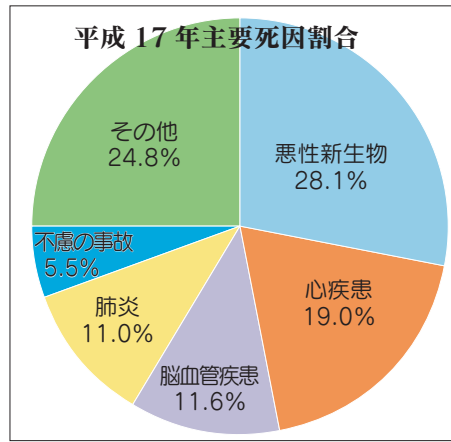
本市の国民健康保険の1人あたりの医療費（5月診療分）をみると、年度によって変動がありますが、平成25年度は24,507円、507円で前年度よりも2,145円と大きく増加しています。

その医療費の内訳は、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病関連が35%を超えている状況です。



2 死亡の状況

平成17年と23年の主要死因割合を比較すると、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の上位3疾患に変化はありませんが、悪性新生物と心疾患で亡くなる人が減少する反面、脳血管疾患で亡くなる人が増加しています。

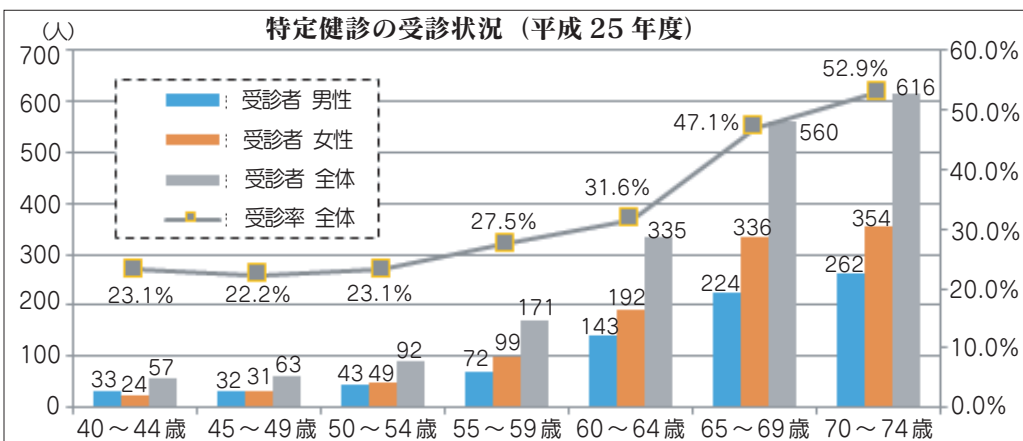
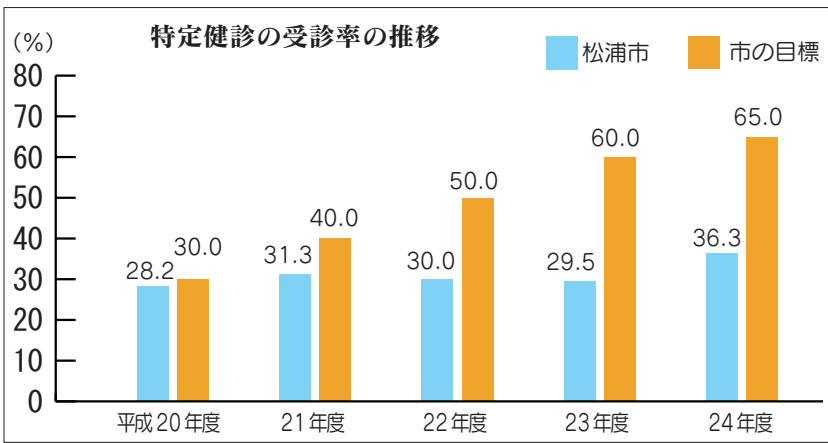


3 住民健診の受診状況

① 特定健診受診者数の伸び悩み

特定健診は、メタボリックシンドロームに着目した健診です。生活習慣病の発症のリスクが高い人に対しては、糖尿病や心臓病、脳卒中を予防し、いつまでも健やかな生活を送っていただくため、生活習慣を見直すためのサポート（特定保健指導）を受けていただいています。

本市の平成25年度の特定健診の受



診状況をみると、年齢が若い人ほど受診する人が少なく、性別で見ると男性が女性より少ない状況です。全年齢において、市が目標としている受診率の60%を下回っています。特に、60歳未満の人については、その半分の30%を下回っている状況です。